資料２

平成２２年度　東京都商品等安全対策協議会　「子供に対する医薬品容器の安全対策」

【背　景】

●平成２２年度ヒヤリ・ハット体験調査「誤飲による乳幼児の危険」

0～6 歳の乳幼児の保護者 2,000 人へのアンケート結果
（N=2,000）

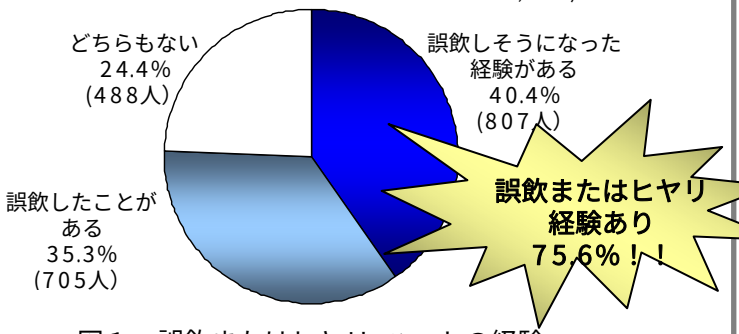


図１　誤飲またはヒヤリ･ハットの経験

（N=5,801）

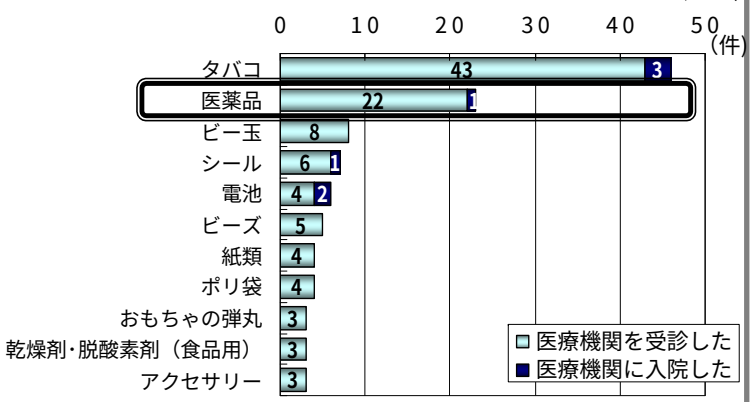


図２　医療機関受診が多い品目

安全（セーフティ）キャップ
５歳以下の乳幼児が開封することは難しいが、成人は開封できる容器を乳幼児難開封容器といい、代表的なものの一つが安全キャップである。

子供の誤飲防止対策が必要！

安全対策（１）「事故防止ガイド」による注意喚起

乳幼児の誤飲事故防止ガイドを作成し、消費者へ広く注意喚起

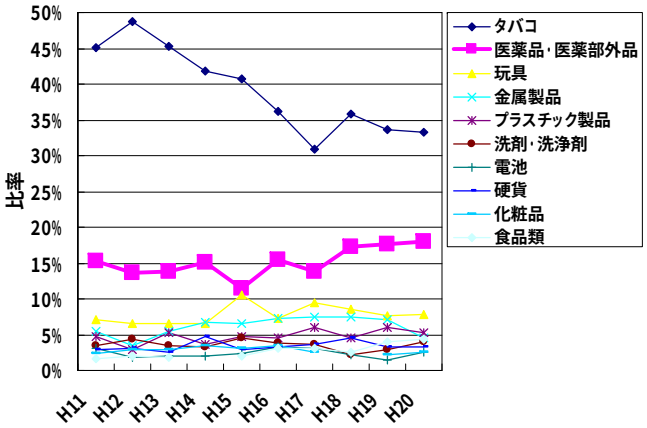
安全対策（２）

- ●子供が開けにくい容器を普及することで、医薬品の誤飲を防ぐことができる。
- ●厚生労働省「病院モニター報告」では、昭和 54 年以降、医薬品・医薬部外品の誤飲比率が減少していない。
- ●海外では子供を守るために、医薬品などに安全容器が採用されている。

商品等安全対策協議会での検討

●厚生労働省「家庭用品に係る健康被害病院モニター報告」

原因家庭用品等種別の動向



報告書では　『医薬品のシロップ等は、大量誤飲のケースもあり、**セーフティキャップ**等の開けにくい容器に入れる対策も必要』としている。

●（財）中毒情報センター受信報告でも、子供による医薬品の誤飲は多い。

●海外での安全容器の使用状況

国名	安全容器使用が義務付けられているもの
米国	医薬品、家庭用有害製品のうちの指定品目
英国	アスピリン、アセトアミノフェン、鉄剤
豪州	医薬品や家庭用洗浄剤
韓国	アスピリンや液状の小児用医薬品等

【諸外国での安全容器の評価】
米国では安全容器適用前後で、アスピリンが原因の子供の死亡率が 34%減少したという論文がある。英国やカナダでも効果が認められている。